

道徳学習指導案

佐伯郡大野町立大野東中学校 T1 道面和枝

T2 三柵明子

- 1 日時 平成 17 年 6 月 1 日 (水) 5 校時
- 2 学年 第 2 学年 1 組 (男子 20 名 女子 18 名 計 38 名)
- 3 主題名 生命尊重 内容項目 (3 - (2))
- 4 ねらい 生きとし生けるものにとってその生命はかけがえのない大切なものであることに気づかせ、その大切な生命によって私たちは生かされているという感謝の気持ちを持たせ、自他の生命を尊重しながら生きていこうとする心情を育てる。
- 5 資料名 「お魚」「大漁」(「金子みすゞ童謡集」), 「かけがえのない生命」(心のノート p.67)

6 主題設定の理由

中学生にとって、人間の生命のみならず、身近な動植物をはじめ、全ての生命がかけがえのない大切なものであるということについて考える機会を持つことはたいへん重要である。自分にとって自分の命が大切であるように、他者にとってもその命は同様に大切なものであるということに気づかせたい。また、そのように大切な自他の命を尊重しようとする心情を育てたい。

本学年の生徒は昨年度、「小さい命」という教材を用いて生命の尊厳について考えた。その際に、動物の命を軽く考える世の中について怒りの気持ちを感じたり、友達同士で相手を傷つける言葉を平気で使うことに対しても怒りを持った生徒が多くいた。また、「たった一つの宝物」という教材を用いて、自分の持つ命の大切さを感じる事ができた。しかしながら現在も、友達同士で人間の尊厳を軽視する言動や落書きが見られたり、校舎内にあった鳥の巣を面白半分につついて壊すなど、命を軽視した行動がある。

毎回行っている道徳の授業のアンケートから、道徳の授業が大切であると答える生徒が多く、じっくり考えることにより何かを学んだと感じる生徒が増えている。

本資料の「お魚」「大漁」は、大漁を喜ぶ人間の視点ではなく、人間に命を奪われる(食べられる)魚の視点で、海の底の魚たちの悲しみを見つめた詩である。このように、金子みすゞの詩は、“人間中心のまなざしを変える”力を持っている。

これらの詩を通して、人間にとって自分の命が大切なものと同じように、魚にとっても自分の命は大切であったことに気づかせたい。また、その大切な魚や他の動植物の命を奪って人間が食べるのは、人間が生きていくためにはしかたないことであるが、命は人間の命となり連綿と受け継がれていくことに気づかせたい。その上で、そのような多くの命に支えられて人間は生かされていることに感謝の気持ちを持ちながら、そのぶんまで自分が生きていこうとする心情を育てたい。

導入では、先日行われた家庭科の調理実習(アジを一人1匹、三枚におろして食べる)での体験を想起させることにより、人間と魚の命を考えるきっかけとしたい。

7 準備物

ビデオ（家庭科の調理実習でアジをおろしているところ，食べているところ，魚の残骸など），
 写真（金子みすゞの肖像，故郷仙崎の風景），絵（食卓で人がお皿の上の魚を見ている），ワークシート，
 しおり（表に「大漁」の詩を印刷したもの）

8 指導過程

段階	学習活動	発問と生徒の予想される反応	指導形態		指導上の留意点 支援 評価
			T 1	T 2	
導入	1 家庭科の調理実習のビデオを見る。	<p>「調理実習でアジをおろして食べたとき，どうでしたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしかった。 ・楽しかった。 ・触るのが気持ち悪かった。 ・手に骨が刺さった。 ・魚の臭いが洗っても取れなかった。 ・食べているときも，内臓とかを思い出して気持ち悪くなった。 ・魚は嫌いだから食べなかった。 	<p>発問をし，数名に発表させる。 絵に，おいしそうな表情を描く。</p>	<p>調理実習のビデオを提示する。 板書する。</p>	<p>実習中のこと，食べたことなどを思いださせる。</p>
展開	<p>2 金子みすゞについて知る。</p> <p>3 「お魚」の詩を読んで感想を書く。 ワークシート1に記入する。</p> <p>・魚の立場，人間の立場に分かれて考える。</p>	<p>「この人はだれでしょう。どんな詩を書いた人でしょうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金子みすゞ ・『みんなちがってみんないい』（「私と小鳥と鈴と」） <p>「詩を読んだ感想を書いてみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この人は心が優しい人だ。 ・たしかに魚の命を奪うのはかわいそう。 ・人間が魚を食べるのはあたりまえ。しかたがない。 ・食べないと生きて生けない。 <p>「あなたは，さかなはかわいそうと思いますか，思いませんか。」</p> <p><「かわいそう」魚の立場の意見に対する質問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚は何もしないのに食べられるのはかわいそう。 魚だってもっと生きてきたのに殺されてかわいそう。 「かわいそうだから，あなたは魚を食べないので 	<p>金子みすゞを紹介する。</p> <p>詩を音読する。 感想を発表させる。</p> <p>発問をし，理由をつけて発表させる。</p> <p>「魚」の立場に立ち，「人間」の立場の生徒に切り返しの質問をする。</p> <p>魚の命は，魚にとってはひとつしかない大</p>	<p>写真を提示する。</p> <p>出された意見を，魚の立場，人間の立場に分けて板書する。</p> <p>「人間」の立場に立ち，「魚」の立場の生徒に切り返しの質問をする。</p>	<p>作者の金子みすゞについて，簡単に紹介する。彼女の写真や育った場所の写真を見せる。</p> <p>多様な意見（「魚の立場」，「人間の立場」など）を発表させるために，T1とT2は生徒が書いたものを事前に読み，意図的指名をする。</p> <p>T1とT2がそれぞれ 魚の立場に立ち，出された意見に対して切り返しの質問をして，命の大切さについて思考を深めさせる。</p>

		<p>すか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べる。食べないと生きていけないから。 「ほんとうにかわいそ <p>うと思ったら、魚は食べられないのではないですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかのものを食べればいい。 ・何も考えないで食べるのは魚に失礼であるけど、魚の分まで生きようと思って感謝しながら食べる。 <p><「かわいそうではない」人間の立場に意見に対する質問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が魚を食べるのはあたりまえ。魚は人間に食べられる運命。 世の中、弱肉強食である。 <p>「それは人間中心の考え方ではありませんか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の方が強いからしかたがない。 「魚の命はそんなにちっぽけな価値のないものではないですか。」 ・そうではない。魚にとってもかけがえのない命。 ・人間の命の方が大切だ。 「魚を食べなくてもほかのものを食べればいいのではないですか。」 ・肉を食べても動物を殺すことは同じ。 ・そんなことを考えていたら何も食べられなくなる。 「命を大切にすると、というのはどんなことでしょうか。」 ・残さず食べること。 ・感謝する。 「それだけでいいのでしょうか。」 <p>「たくさんの生き物の大切な命を奪って(いただいて)生きている私たちは、どんなことを考えて生きていったらよいのでしょうか。」</p>	<p>切な命であることを押さえる。</p> <p>私たちはたくさんさんの命に支えられて生きていることを押さえる。</p> <p>発問をして考えを書かせる。 生徒の書いたものを読み、全体に紹介したいものを取り上げる。</p>	<p>魚の命は、人間に食べられることによって人間の血肉となり人間の命として受け継がれることを押さえる。</p>	<p>だれかの意見に対して他の生徒が意見を言ったり、生徒同士が発言をつなげている場面を評価する。</p> <p>魚の命についてより深く考えさせるために、「大漁」の詩を紹介する。</p> <p>人間がたくさん命をいただいて(支えられて)生きている横のつながりと、命を受け継いで生きていくタテのつながりを押さえる。</p>
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>終 末</p>	<p>「心のノート」の詩を読む。 (p.67) 5 今日授業の感想を書く。(大漁の詩の「しおり」の裏に書く。)</p>	<p>「今日考えたことを思い出しながら、次の詩を読みみよう。」 「今日の授業の感想を書きましょう。」</p>	<p>指示をする。</p>	<p>しおりを配る。</p>	<p>印象に残った言葉に線を引かせる。 みずぶさんへのメッセージという形でもよい。</p>
----------------	---------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	---------------	----------------	--------------------------------------------------------

名前

お魚

海の魚はかわいそう。

お米は人につくられる、
牛はまき場でかわれてる、
こいもお池でふをもらう。

けれども海のお魚は
なんにも世話にならないし
いたずら一つしないのに
こうしてわたしに食べられる。
ほんとに魚はかわいそう。

詩を読んだ感想を書いてみよう。

道徳ワークシート「

(月 日 曜日)

年 組 番・名前

今日の授業

心に残った A・B・C・D

ためになった A・B・C・D

考えが持てた A・B・C・D

A large cloud-shaped thought bubble with four horizontal lines inside for writing.

A large fish-shaped thought bubble with four horizontal lines inside for writing.

A large rounded rectangular box with seven horizontal lines inside for writing.